

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立北小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

やさしく かしく たくましい 北小の子の育成  
 ~どの子にも楽しい学校を どの子にもわかる授業を どの子もかがやく毎日を~  
 (児童像)  
 ・思いやりのある言動ができる子ども  
 ・伝え合い、学び合う子ども  
 ・夢や目標に向かって、最後までやりぬく子ども

今年度の指導の重点

- 1 お互いを理解し、認め合い、思いやりのある言動ができる力を育てる。
- 2 授業を工夫し、確かな学力の充実を図る。
- 3 達成感を味わえる活動を取り入れ、人とのつながりを深めさせる。
- 4 ほめて伸ばす生徒指導の充実を図る。
- 5 児童理解を充実し、特別支援教育の視点を重視した授業づくりを図る。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国  
 ○国語A問題: 県平均、全国平均より高い。  
 ○国語B問題: 県平均、全国平均より高い。  
 ○算数A問題: 県平均、全国平均よりかなり高い。  
 ○算数B問題: 県平均、全国平均より高い。  
 ○国語B問題の目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む問題: 本校68.2% (全国52.9%)、目的や意図に応じて表を基に自分の考えを書く問題: 本校75.0% (全国64.2%)と全国をかなり上回っている。  
 ○算数A問題の数と計算、量と測定、図形問題はよく理解できているが、1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解する問題: 本校40.9% (全国50.9%)で全国を下回っている。  
 ○算数B問題の「わけ(理由)」を記述する問題(4つ)の無回答率18.2%、15.9%、20.5%、34.1%であり、2割ほどの児童がわけを書くことを苦手としている。

県

- 国語: 県平均より高い。
- 社会: 県平均よりかなり高い。
- 数学: 県平均より高い。
- 理科: 県平均より高い。

【学習状況調査の結果】

- テレビ等の視聴時間は、1~2時間の児童が多く、4時間以上の児童も1割程度いる。
- 家庭学習の時間は、2時間以上している児童が3割程度いるが、1時間未満の児童も3割程度いる。
- 読書が好き・どちらかといえば好きと答えた児童が7割、30分以上読書する児童は4割程度。
- 本年度もあいさつは、できているという意識が県平均より高い。
- 携帯電話やスマートフォンでの通話やメール、インターネットをする割合は、県平均の数値に近い。
- 昨年と同様に、「自分にはよいところがある」と自己肯定感も高く、学校に行くのが楽しい、授業が楽しいと感じている児童や、地域の行事に参加している児童も多い。
- 将来の夢や目標をもっていると答えた児童が8割を超えており、高学年を中心としたキャリア教育の成果が出てきていると考えられる。
- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と答えた児童が9割近い。「学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある」と答えた児童は9割を超えていた。運動会や学習発表会、福祉活動などの学校行事等の達成感が高いと考えられる。
- 「国語・算数の授業の内容がよく分かる」と答えた児童が9割に近いが、「算数の授業で活用したことを普段の生活の中で活用できないか考える」「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」と答えた児童は県平均の数値より低い。

成果と課題

○学習方法を学校で指導したが、自主学習の取り組みやテストで間違ったところを解き直すなどの割合が高いことにつながっており、指導の成果といえる。  
 ○学年末に「各学年これだけは」必ず習得させたい内容を決め、徹底して指導する取り組みをした結果、国語、算数ともに基礎的な問題について大きな改善が見られた。  
 ○学校で落ち着いた雰囲気や授業ができている、自分の考えを持って、グループや学級全体で話し合う機会もとれている。  
 ○各教科が好きと解答した割合が高く、学習に対して前向きな児童が多い。特に算数は、少人数指導による個に応じた指導の成果が出ている。  
 ○学習に対する意欲は高く、基礎的な問題について改善が見られる。  
 ○授業で自分の考えを書く時間や討論の時間をとっていることが、記述問題に対して前向きに取り組む姿勢につながり、力もついてきている。その反面、記述問題に対して苦手意識がある児童への更なる対応が課題である。  
 ○算数Aでは、昨年度に引き続き計算領域の正答率が高い(例 905-8 本校100%県90.9%、18÷0.9 本校88.6%県81.8%)。  
 ○算数Aや国語Aでも正答数の低い児童が見られる。本年度、本校では研究テーマを「生き生きと伝え合い、学び合う子どもの育成」~どの子も自分の意見をもつことができる発問・指示等の工夫~としている。研究を進める視点として、「授業のユニバーサルデザイン」の視点を導入して、どの子も「わかる・できる」授業をめざして取り組むことにより、正答数を増やすようにする。

課題に対応した改善方法

- 学力向上プロジェクトチームを作り、全校で学力向上に取り組む。
- 次の5つを重点とする。
  - ①自分の考えをノートに書く活動・話し合い活動を多く取り入れる。
  - ②くすのきタイム(朝の学習時間)の計画に復習タイムを取り入れて既習事項の定着を図る。
  - ③3学期のくすのきタイムでは、「各学年これだけは」必ず習得させたい内容を決め、全教職員で指導にあたる。
  - ④東書ライブラリーや記述式問題集を活用し、基礎的学力を活用した問題への苦手意識をなくしていく。
  - ⑤家庭学習の手引きを刷新し、学習時間や自主学習等の啓発を行う。
- その他に、今まで取り組んできた取組として、
  - 学年、学級通信で自学ノートの例や方法、課題のヒントなどを紹介する。
  - 新出漢字指導→確認小テスト→学期末にまとめテスト(合格点に達しなければ再テスト)のサイクルを続けていく
  - テスト実施時に確かめ、解き直しを必ずさせる。
  - 読書の奨励 等を継続して取り組む。

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)

- 保護者・児童アンケートの実施(2学期末)
  - 5年生確かめテストの結果を分析・検証
  - 3年NRTの結果を分析・検証(結果に応じて算数チェックシートを活用)
- 上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。

各校の具体的な達成目標(数値目標等)

- 各学年の家庭学習の取組時間を規定時間以上する児童100%を目指す。
- 算数記述式の問題の無回答率を1割以下にする。
- ゲームをする時間が2時間以下の児童を8割以上(今年度77%)に増やす。
- スマホを使う時間が1時間以下の児童を9割以上(今年度86%)に増やす。